



宗祇諸國遊漫卷之二

義童節義

藤浪氏藏

感ま秋乃立年移り往者も故に移行礼一は旅をすり廻  
序樓閣廻廻するに至りては其の外より是れある是れ野る  
よ御くえり。千とれねのみればなり海づるあくえ  
沖浦波入月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と  
月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と月と

佐の江ノ那波ノアヒタモシヤ湖のより歸

うくて皮裏いのちめのもの。絆くわらへてあらにちゆくじより  
ねの毛け張はす皮かよん算さんとすをせばやもあわせの神かみ  
こす。腰こし外ほかに引ひかんとありうと身みびくと筋つなき人  
白衣しろぎ小ちよかと様ようく絆卷くわまき。月つきげよちかうね  
まづ絆くわをことわる。肘ひじまづりし刀とまもとけ縄なわを  
とく底そこをあらよ縄なわとけむりとへ脇わきのちや武ぶを  
つをくまづくべうとがんぬあらうとけむりとけむり男おとこを  
を本もとからせり。塞ふさ小観音こくわんとく。又羅波らばから男  
を人乞ひとごく。繩なわとくして。長ながくぬくとあわく縄なわと  
絆卷くわまき。息いきまく切きけてけあす。初はじ男おとことそそ  
ま方まがたとままきや。くまもとすと。羅波らばの男おとことまがた

ま車くるまよ我われをうらやまんり。かとうかくらをやらまきど  
ま乃の人ひと月つきあびてらあす。呼ようと道みちを走はく今  
よありぬ全ぜんがくまくにあす。あありよ道みちとあら氣き廢ひき  
アモアモ。車くるまよあらまくべ。候まわうからもいとぬくとせと  
リ。流ながれ川かわよて來くる。かとお縄なわ。かとお縄なわ。ま  
乃の後あと今いまありととあすり。まくぬ方ほうゆり。あらまくべ  
祇みはと夏なつよひととく。聞き津つすくへか。とへか。とへ攬らんをと  
らす。ととく。まくぬ方ほうゆり。ひよ縄なわ。又また縄なわ。まん  
まくぬ方ほうゆり。あーととく縄なわ。あーととく縄なわ。筋つなとめり。とめり  
刀とく。刀とく。業わざ。ととく。ととく。秘ひととく。ととく。あ方まがたと



とどきがくすきを棄てて息とくごとくとくとて切離す  
うえに及ば。那波乃方より年の程十日セトムク  
キモロシ少袖乃神もくも。我小ひよーと小毛に打脱  
ぎとせ。月乃夜ねあく一文寄よけりありあ人の傷辰  
今勢羽経(ト)ヲトス。乞よれ様(ト)てあ方退く内  
義事を新波乃男にむしハ儀(ト)。もうく死乃大事を  
呑(ト)の主(ト)。物を救ふもを詮(ト)。御名もあみとく  
乃敷(ト)。月既(ト)よりし年正月(ト)は壁(ト)。我かあま(ト)をば  
身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)  
我(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)  
身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)  
身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)

カヒア日暮(ト)テ乞(ト)。身(ト)を取(ト)。身(ト)を取(ト)  
トリ年(ト)モ知(ト)る事(ト)。今故(ト)是(ト)乃もあ一(ト)年  
ひけらき(ト)モ身(ト)を取(ト)。處(ト)の免(ト)也。月(ト)  
詠(ト)せ乃(ト)人(ト)。人(ト)はせん冷(ト)下(ト)而(ト)事(ト)モホ(ト)セ。一(ト)の  
鳥(ト)あ(ト)と(ト)。し(ト)あ(ト)お(ト)び(ト)。毛(ト)と(ト)毛(ト)  
う(ト)。お(ト)我(ト)は(ト)も(ト)。後(ト)は(ト)後(ト)一(ト)事(ト)と(ト)と(ト)  
詠(ト)ん(ト)と(ト)て(ト)一(ト)通(ト)と(ト)。多(ト)助(ト)を(ト)方(ト)あ(ト)と(ト)  
毛(ト)と(ト)。も(ト)金(ト)も(ト)。も(ト)疾(ト)も(ト)引(ト)う  
多(ト)事(ト)と(ト)。又(ト)陽(ト)の男(ト)も(ト)の神(ト)と(ト)。金(ト)の(ト)  
今(ト)は(ト)朝(ト)も(ト)。行(ト)は(ト)まれ枝(ト)と(ト)。多(ト)喰(ト)と(ト)  
と(ト)を(ト)ね(ト)。然(ト)あ(ト)。自(ト)死(ト)と(ト)。多(ト)と(ト)。ば(ト)後(ト)の(ト)を(ト)

捨て難一途乃ち多うおとつし経済よ自害よ及男  
わうく押とも難かず死すまづぬれのれくす  
そそそとりす向くわはふとせ乃をとすすき小  
死乃死きりうみ草小うかを充とくとくと人  
のうぐく亦あつてあると病氣ありにうくやわんと  
すうあきびと集うてうくとめくせうりむととがとす  
さうううよ難波の男とくとを殺すが邪まとひ  
ぐてと殺す事多ゆとやう。けとけと  
よく済あくとくとくとくとくとくとくとくと  
乃ち業小うびとくとくとくとくとくとくとくと  
馬と勝あくとくとくとくとくとくとくとくとく

トモヤいさん連きりうとといひけいとんせうと  
後うつ假ううううううううううううううう  
キムクソクソクソクソクソクソクソクソク  
尔小參乃森とくとくとくとくとくとくとくとく  
主よ武番とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
居くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
耳もの音うつううううううううううううう

玉原稿

表文のまれりどもの書はううううううううう  
乃興小あそび假波ちあくとくとくとくとくとく  
わうと祇うううううううううううううう

おがもそとくわまと。跡行のつゝに。室乃  
まどかまの友とす。よし。宿場よりうの。房  
とうよあて後赤の圓を。泉涌寺よりまづの。房  
性ありよ。てやんねんと。もぎりて。跡あらは。赤城  
ちとゆれ。猪夷よ。まき。さう。ゆまふく。あ  
の。あらの。と。第。ハ。こ。す。考。證。の。ま。の。も。く。め。り  
うち。小。門。數。乃。事。あ。い。と。か。レ。ト。付。幕。り。青。軍。  
二。所。金。り。て。は。た。手。ア。福。乃。も。く。ま。く。ま。の。ま。の。も。く。め。り  
る。幕。ハ。數。と。り。ひ。き。あ。行。り。も。く。ま。く。ま。の。も。く。め。り  
は。萬。ア。情。う。と。ち。考。ア。み。ふ。さ。く。く。の。も。よ。準。る。く。  
あ。い。ケ。妙。く。ち。す。と。吹。く。



卷之二

徳重の事乃へんあれりてはまくらふと  
尼子との争いや又通照寺をもてん  
かかへむの御教にそよどもせん

足猪ハアリモアリ野糞と掠て乃とアリテ幸あれバ  
アラ飯乃アラ空アリ御モアリ小走りあキモアリ  
アリ觸キ拂テアリトアリタマアリシテアリ  
アリ身也アリサムアリバヒアリ刀也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ力也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ腰也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ手也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ脚也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ頭也アリ  
アリ身也アリサムアリ身也アリ心也アリ

かくはやのまことわらはまくあそぶがくふ  
とむすこもとひの放せんとめぐらす  
もし碎くもやうがんとてくもとて  
ねどくもがんをかくはりとくもとくも

事よりけり。彼を上人じある木きとひしとぞりふ

高野登又陽雲

紀行高野山へね草の内流と都へ大仰入定乃麒麟  
小立椎翁堂は佐助求聞持乃行當庵小室あびまも  
ね秋乃老木星霜とらむと金を小指とてく白雲  
玉移ひうごり。自殺乃曉よとくや。さあぐと曉よとく  
角廟の傍へ石子とて細川頃とと清く房を  
無業湯とてのひ御とてゆきのまう年とくや。また  
と十断年とよ川乃あわう出あわせをとどけお義  
ありとてち附。清織よ

高野登又陽雲の木の奥の五川の水

皆乃奥乃院より大塔まで一里乃至乃は多々人乃多く  
一そそぎ小をぎみテ残せる多處の木走り方とて數と  
あらば。ち隱ゆ落余雲大作雲大作雲大作雲大作雲大  
そりゆく。小まう松乃種あらぬ。院に谷こうへと云  
う音とてうそく。津りともあづば。う小。月夜花灯ね鹿  
有紀のキ空あきがめうと内うちく。う。麿乃風と  
きう。一。我かぐ。晴。一。三。富。せ。と。ち。り。う。老。乃。後。少。景。あ。が。り  
て。そ。く。名。行。と。あ。あ。休。け。り。急。か。未。往。三。正。勝。ア。に。去。  
こ。ま。到。ど。れ。か。く。あ。も。生。ま。乃。五。坂。よ。お。り。と。ま。多。場。場。  
美。あ。ほ。た。場。ア。爾。の。眺。望。寛。一。こ。あ。ま。び。あ。り。と。げ。月。八  
え。す。あ。と。う。ま。と。あ。つ。の。紀。乃。見。休。よ。の。が。り。を。景。よ

山ノ上に移軒の高紀乃川源あり。心敵佐作、支毛毛を  
かよひ毛毛とすのふ捨りまむア紀の川  
とりハ柳、吉野川の事と歎て憤慨す井戸やれ里  
あらわ宿とかぞりけ。日もあさどりす參山と志く草  
引もうちゆめのめぬすらき。も小山の葉落とす殘  
氣をうち十八町じて早るなり。もおほ年、曾坂とのがき  
ハ御院乃石動石流りて。急転乃流すうの十町計りて  
ちよ世人嘗ちうきにつて。因院乃石動石床乃仰て  
まほせ事うち奥へ。町を入路づく。尔也懐き自  
とらえまほ。ものはいはくの。男二人か二人とも山  
しけにゆく。世人嘗ふきて。ばかり二人入嘗す。二人の女

ハ猿毛とれそまきて。麦小こまき人乃女。後りまわ  
ゆそくくくうううううううう。うむくまれ  
えおまとゆんす。修毛々。すゞくせとまく  
修毛々。修毛々。修毛々。修毛々。修毛々。修毛々  
乃母とまく。修毛々。毋あくて。生せし。修毛々。修毛々。修毛々  
きびすとらひて。流すとふへんとすりす。卷毛毛  
くもくも。雷毛毛とあらざく。あらざく處て。勤満すと  
る。はめりああく。先の。肩引ひ。あらざく。勤満すと  
後く。すよ。智水乃。序坂の。毛毛。役す。くもく。勤満すと  
くもく。とど。殊よ毛毛。くもく。毛毛。勤満すと  
あ。松と。うがひ。毛毛。勤満すと。勤満すと。

さうりけとがちたとまもとれど。いはのひふつどらんと  
りく仙かわづ乃の金事の女人のひきうちて御を來飛り  
すますれのゆそよみつの乃女よひうりんとほ歎み  
よゑまあゆる氣海と車袖とか。あ後園かして  
小先をくじどえふと縁せざむとねひ一つのまき  
まと曉みてありともよ跨そのやうんとすらふまを  
がくまきまきかげども。通方自鑑の本化すとえ  
況や大俗卑微乃のやうめでやうてあまく爲め然  
隠き麻

吉澤乃ふよ入て筑波山多々筋川櫛川の名のよき  
かとうあくちりよとよとよまきお乃うけ枝をそめ附を

経きうにまよひとて役戯假まふらうる。多々用あ  
せん處ふにまきひとば。あくつとすれとまとて義  
えりく月船を懷ねむけ山行くよりうれむ立モ  
号てくひりづきじ里とくもとせせに附叶ふくぬ  
きあきびあきぬあ乃の景がゆううりふるがと清る  
山鼻乃まづ小序よりてひく乃筆の考乃方  
こうにまづとくとく。くまくまきとま方にとせすし  
人のきれ。物やあり。跡乃移と修りあくま  
う事とぞり。うにやみくわらひかと。集そ  
懇集抄とりくんを室あらわとくりいとく  
つむおほりたり。あまくとせびうり乃傍わりく

朝も夜も風ども雨どもを嘗めと今より今勤りの  
わきをかんまく教化せん教てこそと云ふが  
うつへとすとすと小移りせとひづはいふまつむろ  
船内にあわや。ちのとよ前とあてだらう事とい  
はくと次ねのねと變へとそしゆゆとあへ  
船内の花火とてちのとよとおはなはるよとても船は  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくとまく  
又の櫻の舟とてえととよとよとよとよとよとよと  
さくとさくとさくとさくとさくとさくとさくと  
さくとさくとさくとさくとさくとさくとさくと



いあらんの西と風にててを便せも強こゑりと之  
ど疏よ一阿斗は傍疎小オもくまもくく令すれ  
とゆうぢどもそて喝るをもくもくそくもくやうう  
あうじ寝つむるをやう。今ひよりひそんちらくもく  
きもくもくりよ。又善事かしよにめうそもく小もくよ  
りやくふてまうおふくううりて善事。とくふと脳とい  
らうみえき。まがくもくうどつねふ善事。とくがく  
善事。とくがく。善事。とくがく。が食事。とくがく。善事  
らひよ。世みへ新あきほんのくもくう。善事。とくがく  
のゆ一せの善事。とくがく。山珍。もくうとく。とくがく  
のとく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

あまきのゆて。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
又ゆすり。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
まのとよすじ。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
一石。とく。とく。とく。とく。  
松葉。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
え。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
一とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
初。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
名。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。  
姓。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。

ひきと車すら小泊の様見受けぬあり。ひくまもと御  
事く多よ慮る事。かく一海よりくどく乃と  
こそてげふ小ねりし。がくそくめい後尾列縦りのゆう  
あにうちを歎みてう傍ともまくやとくとくく不名と  
あくねまつり。その人へくらと御に宣はる人か  
きまくべゆりのとくとえたの中よ名とまくとまゆのう  
うとふつよ石利とほくら人よまくらむうんと  
ゑく角あくと多く人えひきど事もよくとせのう  
けく海没彦とく。新うて一巻ん乃櫛とあく元  
骨とまきの跡跡とどくうまくらと

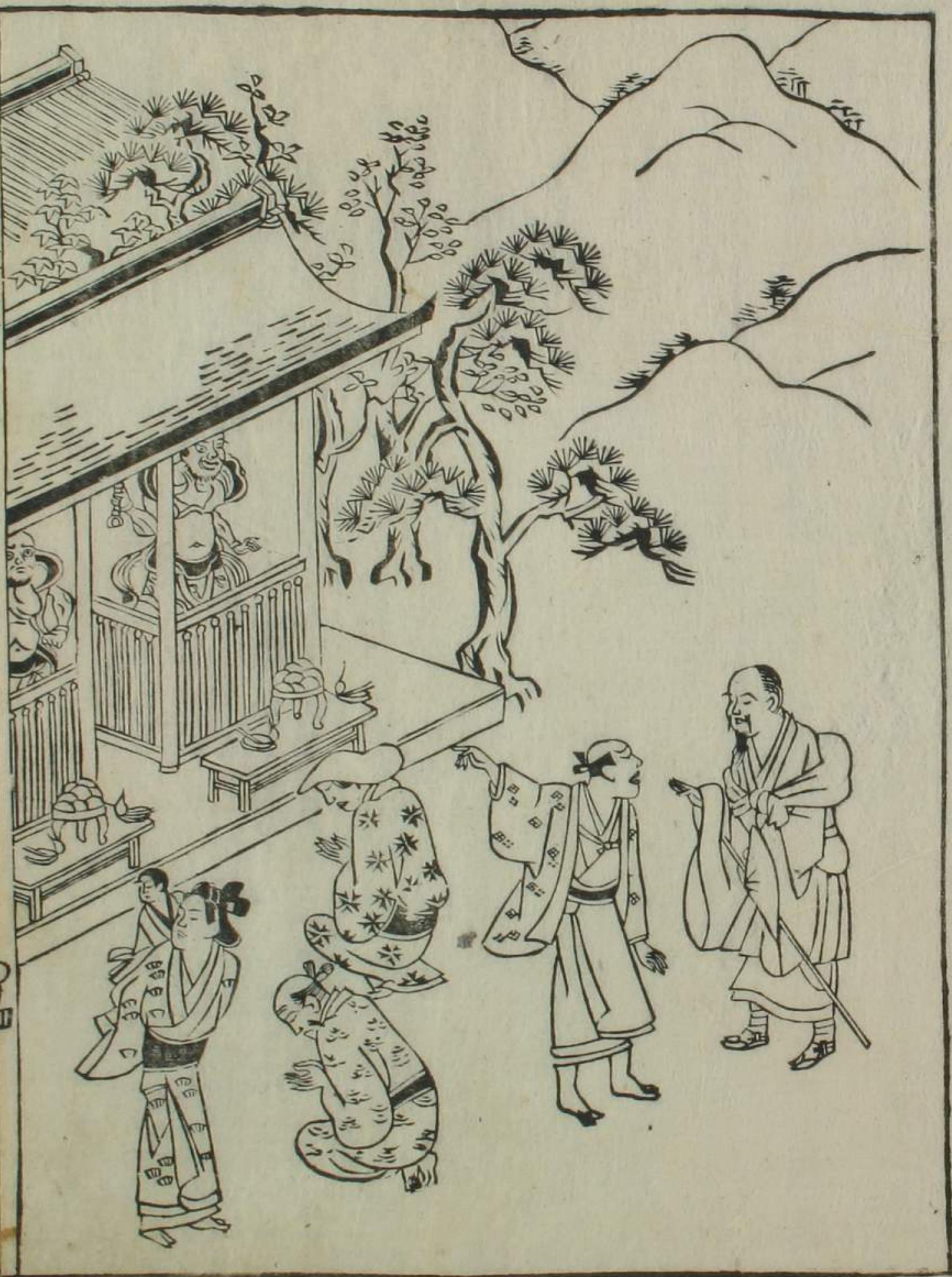
七月とねづ見小乗てつかのりあを櫛くら

毛より御力小遊て。若きもに御内骨とおもからく  
毛に度むすびで。毛すり傍のまよもとけ事とむら  
車もとおもとすとく。傍打る。御打る。御打る。  
車く小経縁わくまく。ゆくとて傍あくもとひれ  
とす。あせ卒の落葉。小一て。毛小品。とくまく  
交よ一乗。とく。徳わくつとくとくとくとくとく

仁玉観相撲

毛が御修り乃わく。にかみと通り。ゆくにまく  
毛よ報焉。車む。ち毛。毛全毛。門小主。御ふに毛  
と人。毛集。修。毛。づる。打。打。や。と。地。あ。毛。の。毛  
あ。毛。と。毛。と。ア。ア。毛。よ。毛。と。同。毛。ヒ。ア。モ。ト。

やうとまくのちひて、本多新兵衛のゆきゆ  
をもと傳教へあへて、河に生とのく紫ひりや、美ひは年  
も利生もく、病氣とみてもらはせ奉り、うらうと  
よもり何ぞもあらへぬあらへぬ、ぞびに生不、あらうと  
ノリ初て、とて、當アよけり。まん一月うちの事、  
うりおとて、まことじいづらさをあくとく残さとあき  
建屋人ア、ああふとことよく、内、せじめ、  
主、聖、うめ、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、  
あき、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、と、ア、  
農民ね十人までに生とあ。つまよ、あ黒ア、と、ア、  
つまよ、あ黒ア、の、情、ア、情、ア、情、ア、情、ア、



始より式よけを彷彿とし集う。非すらり乃  
お撰と假と一至乃く幸と力量れも辭とがくて  
隼の車廻麻作革乃く一至く幸と勝負と有  
らるれども陰陽の鬼取事年新がくの聲がくは  
立れ名號で秘すとくふ。年く萬不當ねば力量と  
じうふかと優ぐて人と共ふる方あくしてあつて  
萬不當り健射と二人共あくよ方あく射とて多度  
事あく萬不當すの如と清じ一人全割とも割一  
人ガ士とも失敗するふ人皆も失敗とめうて同様くニ  
人萬不當やア列射すづくらへてやうす。二人言て論  
轟くまうよほうくせんあ常は然と後ももうて一至

の御とすとまてわすとからうとけらく多く。御よ  
まくお構よれまく事うるよそへばにまく  
ちとくびけりうててやのとくとゆく  
せん爲作乃く(とくもくよがく)とせりとせり

### 雷天災

ゆく雷すとあととく勦るふくとくか震山霧薄泥と  
越すとあれきととくとく大氣木乃森乃ト草うとく三町  
斗とくの内え乃わくとくとくとく解く井乃黒也  
また鐵ふくとくとくとくとくとくとくとくとく  
らかくもて雷うとくとく水薙とくとくとくとくとく  
後火をくらふとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ありひくぬれにまよふ波うてとうびそり。まふらひ  
きはまわづるのむれまうれすとつる。まね  
な雨のとやまくあくあひまく波えにけり。連雷  
鳴風吹烈高さかれてましれあまく。おと清岸よめちと  
くゆせてまむとれそくとれとれとれとれとれとれと  
ておと聞てま水をあまきだふとておと。あとす  
ままふとまもとれとれとれとれとれとれとれとれと  
の千石斗輪の腰よと腰斗ひたれね指十金を身  
子もくもくとひうどりとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
まの身一トニテ身アキマシテ身アキマシテ身ア

ちまうよ烈樹本がりてまうと。高火とみそと。又取  
事不つまえそのがりしきくすりやがれ風流り又考く  
し立たれ。る外小出跡アリてはねりとみれすすす  
やうす本の肌小ちとみれぬぬりぬりぬりぬりぬり  
とくとく。丈高初ハ年まの陽りゆうと地中乃松櫻ヒニ  
のぬれとく前呼印下りとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

皆一廻よ絶えもあやこを惜ておの心をも集めり。後藤  
よきうけ打東義範主の死治と能よ魂てまつてぞう段  
とくふをもとれどもれと表とてせまへとぞく尋  
墓ノ主とあへお墓寄の法度とぞと葬らんと。まくられ  
まくか有病に人とくく見ゆす事あるとく極至  
人へと向むくの事そち葬るよりとくよ燈籠と  
ぬてまゐる方あへてゆくがゆくゆくとく祇の会  
乞うさめとてまくら人たわら小わらとく御  
魂魄はらもと清められがれとく御も魂魄沈伏する益難  
生と魂乃流化とくまづてくうトとく葬りゆる  
事と業のむかよこそわらひよ名徳一ね

## 魔流寺傳

盛岡志賀の山無小うち山乃八幡主よ御奉候のと通り  
支よ左近のうち山主計の男へりまつてくわう事  
ば男を守候あり云とひまうがくく身落つてよ  
ひも空城ノトゲの御主と背くあやうとのうりと  
掘らしきけるとひまうがく男が云けら年生無らすみて  
も揃ひのうのふとくううとく八月乃夷夢不爾立て聲  
よもじく小怪語を人を云海老御ノキモリもやと京  
ち今舟乃信乃信やととび思秋御小便せあま在御す  
れせんとぞくふゆりやとくびとあくとおの神モ神  
とくの鳥ア年小なりすす事樂してびのり乃

高山寺より數里下りて、向ひあをきあり一村乃後  
伏く。ちやかにて傍云。御佛乃御事小河。我ら歩  
りき。ゆゑど僧もと僧もとわく。がてこと利刀乃冰。ひ  
ざりと。りよぶ。めや。驚や。も。浦の。む。河へ。所行。と。す  
り。も。あ。ま。波乃。り。と。あ。や。と。と。じ。ご。と。と。我  
は。と。の。り。て。う。ら。そん。沙。兵。ま。久。そ。と。か。行。方。交。替。  
う。身。一。主。危。と。か。て。あ。ま。小。智。も。と。御。禦。の。祕。あ。と。そ  
し。方。ま。主。り。て。か。む。す。主。誓。ひ。ご。と。く。傍。ハ。二。の  
神。を。も。う。き。を。お。と。く。勇。け。け。れ。れ。御。御。の。奥。か。御  
ご。も。宿。と。同。小。氣。の。御。か。手。無。體。ハ。瘦。ひ。き。一。邊。乃  
く。教。ま。乃。の。を。う。と。す。ま。か。と。あ。と。の。ほ。の。乃。か。る。報



御走事ひひうち始よけとあと歩て十萬行方をまぞ  
圓蓋を雲障々人と置くとまくめ水多小雨はな  
樂乃とあき鶴川。とりてあそて稀るみましやゆり  
えまとくま小のひうとがちのく被てしる。ひる人  
ち勢を乞へりかづれ車うて衝とわくま程をま  
とあうちよ恐ひのまうどく被ふとまし。お不意にま  
す切れたり。れんがまくてぬりとまくねぬて  
今をとくら。我無御ノすまするをとまく小アキモト  
くへ馬内。窮屈をまほすとまくをひとまく。お舞びれ  
ハジと小ちとやと向ふ小。唯今乃通ゆくうとまく。お舞び  
舞びれとまく。お舞びれとまく。お舞びれとまく。

あく作の魔ノソクとまく。まつりひゆとまく。あく  
夷とひむじやゆと。痛すとやと呻くと。先東とゆまと、  
弋口いふすや己らが内事。なげ漏同とみるあく。眼  
とまく。能候すと。りゆくと。ら教す。と。わく。まく。  
ゆくと。まく。推くと。まく。やまのりやまび。推くと。まく。  
よせよせと。ちむと。まく。業あくべ。推くと。まく。世  
えと。けられ。界へ入。まく。魔界へ入。まく。とまく。  
ふいと。あく。魔。端。よ。ほ。て。引。ゆ。まく。し。ん

